

段葛

約 450 メートルの段葛は、鶴岡八幡宮の境内への入り口を示す三ノ鳥居まで続く一段高い歩道です。元々は、鎌倉幕府初代将軍で鶴岡八幡宮の創建者でもある源頼朝（1147-1199）が 1182 年に作らせたものです。神社から海まで、石を積んで一段高くした道を作らせたのです。作らせたのは、頼朝の妻である北条政子（1156-1225）が当時妊娠していたため、後継が無事産まれてくるように祈るためでした。息子の頼家（1182-1204）が産まれるまでに完成し、頼家はその後鎌倉幕府 2 代将軍になりました。またこの設計には、防衛のための意味合いもあったかもしれません。段葛の両脇にはかつて堀があり、段葛は神社の境内に近づくにつれて細くなっている遠近法により海からの距離が長く見えるように作られています。敵が攻め込むのを撃退しやすいからだとも言われています。

段葛はその後の数世紀の間に、時代によりその姿も変わりました。1878 年には、新たに横須賀線の線路を敷くために、一ノ鳥居から二ノ鳥居の間の部分が撤去されました。また 2016 年には、段葛の大規模修復に合わせて、段葛に沿って植えられた桜の木が植え替えられました。桜は通常 3 月末から 4 月中旬にかけて花を咲かせます。桜シーズンが終わると、晩春にはツツジが咲きます。